

CSR報告書

2019

CORPORATE
SOCIAL
RESPONSIBILITY
REPORT



姫路環境開発

姫路環境開発は、企業理念に基づき当社が果たすべき
社会的責任 (CSR: Corporate Social Responsibility) に対する姿勢や取り組みについて
ステークホルダーの皆さまにご理解いただくために、
本年度から「株式会社姫路環境開発 CSR報告書」を発行しています。
私達は、さまざまなお声に耳を傾け、姫路環境開発が果たすべき社会的責任や
課題を整理・再認識したうえで、従来のCSR活動を踏まえ、新たに展望・経営計画を定めました。
また、皆さまと連携して、持続可能な社会の実現に貢献していくため、
本報告書により当社の活動をご理解いただき、
より深い信頼関係を築きながら、CSR活動を推進していきたいと考えています。

CSR報告書 2019

Corporate
Social
Responsibility
Report

目次	02
----	----

▶ CSR報告書

代表あいさつ／近況報告	03
-------------	----

展望／経営計画	04
---------	----

CSR活動報告

働き方改革	05
-------	----

従業員の声	06
-------	----

広域清掃活動	07
--------	----

ペットボトルキャップ回収活動	08
----------------	----

花とレンガのエコフェスタ	09
--------------	----

フードバンク活動への支援／活動者の声	10
--------------------	----

環境学習	11
------	----

自助自立への取り組み	12
------------	----

環境負荷低減に関する取り組み	13
----------------	----

社員教育／活動者の声	15
------------	----

▶ 会社案内

会社概要	17
------	----

事業概要	19
------	----



株式会社姫路環境開発
代表取締役社長

梅崎 晃平

地球環境に限りない挑戦！をスローガンに 私たちHIMEKANグループは環境を通じて 社会に貢献いたします。

この度は、弊社が初めて手掛けたCSR報告書をご覧ください誠にありがとうございます。

本報告書を発行するにあたり、ご協力を頂いた関係者の皆様には、心より感謝申し上げます。また、ステークホルダーの皆様には弊社の取り組みに、ご理解とご協力を賜り重ねて感謝申し上げます。

さて、2019年のトップニュースは、何といても令和の新しい時代の幕開けでしょう！この新しい時代に記念すべき第1号を発行することができ、とてもうれしく思います。

この度、「誰一人取り残さない～No one will be left behind」を理念とした「SDGs」への取り組みを強固なものとして見つめ直し、弊社のCSR活動にSDGsを取り入れることで、持続可能な開発目標としてゴールが定まりました。そのゴールは自社だけのものでは無く、世界中の人と共感できることにより、活動する意味が生まれました。これからも社会とともに持続的に発展していくために、「17

のゴール」を目標に掲げ、国連の持続可能な開発目標（SDGs）への貢献も視野に入れながら、一人でも多くの方に賛同して頂き、持続可能な社会の実現に寄与してまいりたいと考えております。今後は、さらなる社会貢献活動の促進と、社会環境の変化に応じた見直しや、より実効性のある目標の設定が必要になるものと認識しております。

私たち、HIMEKANグループは社員が一丸となって、社会貢献活動に取り組み、「誰一人取り残さない」ゴールに向かって発信し続けます。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



展望

Outlook

④ 人材確保と育成、働きやすい職場を目指して

昨年度からの課題でもあった雇用の確保・人材育成を今年度は主に意識し、取り組みを実行に移してまいりました。新入社員の確保に際して、まずは職場環境の改善・働き方改革への取組推進を行い、ハード面とソフト面の双方から地盤を固めました。新卒者に向けての就職セミナーを実施、積極的にインターンシップを受け入れるなど、採用活動も積極的に行いました。結果として、優

秀な新入社員を5名採用することができました。みんな若々しく、次世代の担い手として貴重な人材です。幹部候補の育成を重要課題とし、次年度も継続して雇用の取り組みに注力し、風通しの良い職場づくり、強い組織づくりを目指していきます。

④ 高度な中間処理事業の醸成

若い人材や女性社員が増えたことにより、職場が明るく、活気づいたと社内外を通して、声を聞きます。取り組みの結果として、体感でき、大変うれしく思います。反面、専門性のある人材の不足、新しい設備への対応の遅れなど、新たな課題も浮き彫りになりました。搬入物の受入過多により、制限を余儀なくされている現状を鑑みると、高効率な設備の導入、またそのIT化による作業負担

軽減、より専門性の高い能力を持った人材育成が急務と言えます。今後は、働きやすい職場環境づくりとともに、安全衛生面にも再度徹底した取り組みを進め、IT化を伴った作業負担軽減と、柔軟な業務対応が可能となるよう専門性を高めるための施策を考えています。

経営計画

Management Plan

1 Resources

人材と設備

- ・ 人材雇用継続
- ・ 人材育成
- ・ 高効率な設備導入
- ・ 社内ネットワーク作成

3 Technologies

高度な技術基盤

- ・ リサイクル技術の向上
- ・ 収益力の向上
- ・ 技術向上への支援
- ・ 研修等の参加支援

2 IT Solutions

ITソリューション

- ・ 作業効率化
- ・ 従業員の作業負担軽減
- ・ 安全衛生の再徹底
- ・ 環境変化への対応力

4 Social Responsibilities

社会的責任

- ・ コンプライアンス
- ・ リスク管理
- ・ 奉仕活動
- ・ 社会貢献



働き方改革



「一億総活躍社会を実現するための改革」と言われています。働き方改革によって、多様な働き方を可能にしたり、格差の是正や労働力の増加を実現することで、どんな人材でも活躍できる社会を作り、今後日本が直面する深刻な労働力不足に備えようというものです。姫路環境開発では、2019年4月から適用開始となった「働き方改革関連法」に根ざした取り組みを推めています。

⊕ 長時間労働の解消

どこでも資料の確認や作成ができるようにタブレット端末やノートパソコンを支給しています。これにより、一時帰社などの無駄な時間を削減でき、直帰しやすい環境を整えています。また、長時間労働の直接原因でもあった営業時間外での電話受付を廃止し、ホームページに注文ページを追加し、運用しています。

年末や年度末など、廃棄物が集中する時期には、並んでくださったお客様すべての対応を終える頃には、1・2時間は遅くなることが多々ありました。対策として廃棄物の種類に応じ、それぞれの受付窓口を増設し、円滑化しました。長時間労働の解消はもちろん、お客様の待ち時間減少にも寄与しています。

⊕ 女性の就労促進

ほんの10年程前は、結婚や出産をすることになった女性社員は退職していくのが当たり前でした。おめでたいことなので、疑問も持たず祝って送り出していた時代です。しかしながら、経験を積み、知識とスキルを身につけた社員を失うことは、会社にとってマイナスでしかありません。8年前に初め

て産休を取得し、復帰を希望する社員が出てきました。復帰後も短時間労働で現在も活躍中です。その後、短時間労働のモデルとして働き方が定着し、育児と仕事を両立できる働き方は社員に浸透しました。今では結婚や出産をすべての面で祝い、応援できる環境になっています。

⊕ 作業環境の改善

2019年はまさに社員のために投資をした1年でした。2004年に現本社が竣工し、15年の歳月が過ぎました。社員数も増加し、事務スペースの拡張、木くずリサイクルセンター事務所のリフォームなど見た目も綺麗な中で仕事を行える環境ができました。さらに大きな改善が3点。

1つ目は、社員の休憩室を一新した“いこいの空間”です。休憩時間も充実できるようにオシャレなカフェテラス風な空間に生まれ変わりました。休憩でリフレッシュし、仕事に集中できる環境になりました。

2つ目は、ここ数年夏場の暑さで集中力が落ち、ミスや作業効率の

低下が目立っていた事務所内です。空調設備をすべて入れ替え、環境改善を行いました。なお、電力消費も抑えられ、環境負荷の低減にも寄与しています。

3つ目は、複数の業務と電話対応などの業務が混濁し、従業員のオーバーワークや効率低下などから残業が多く発生していた事務作業です。業務改善の試みとして、配車専用の事務所を中島工場に創設。電話対応で最も多い配車に関する業務を切り離しました。これにより、年末などの繁忙期でさえ、定時帰社が可能となるほど、改善されました。

女性社員

総務課 中嶋氏

【入社年 2018年】

私にはこどもがいますが、定時に帰ることができるので仕事をしながらでも家庭での時間を作れています。家に帰ってご飯を作ったりこどもと遊んだりする時間がしっかり取れるので、残業がないことはとても助かっています。

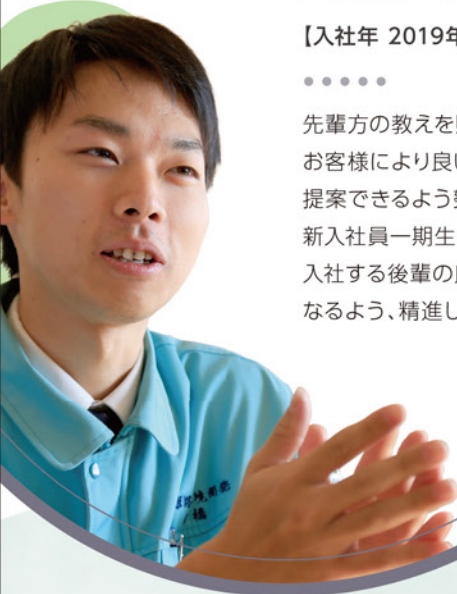


新入社員

営業課 石橋氏

【入社年 2019年】

先輩方の教えを賜りながら、お客様により良い廃棄物処理を提案できるよう努力しております。新入社員一期生として、今後入社する後輩の良き見本となるよう、精進して参ります。



ベテラン社員

収運部 鞍野氏

【入社年 1996年】

阪神淡路大震災直後は復興に向け、会社全体で尽力いたしました。そのため長時間労働になっていた部分がありました。しかし、社員数が増えるにつれて安全への意識が高まり、近年では安全を重視した、時間内に効率的な作業が行えるような体制が整えられました。



職場環境の改善・醸成

働きやすい・働きがいのある快適な職場環境を目指し、大規模な改修を行いました。



本社2F 休憩室



本社2F 男子トイレ



本社工場1F 休憩室



収運部 事務所



広域清掃活動



姫路環境開発は地域の方々とともに合同で行う美化活動を通じて、地域の環境美化に貢献したいと考え、毎月第一月曜日に全社員総出で地域の広域清掃を行っています。

2005年(平成17年)より活動が続けており、通算150を超える継続的实施で、美しいまちづくりに努めています。

➡ 継続していくことの大切さ

毎回バッカン(3m³) 1.2個分ほどのゴミを回収します。海沿いは漂着ゴミが多く、捨てられているゴミの多さを認識させられます。清掃活動が続けていくことの重要性を社員一同感じており、少しでも、安全できれいな地域となるよう継続してまいります。また、より良い美しいまちづくりを目指したこの活動を行うことで社会や環境への貢献意識、CSR活動への参加意識向上にも寄与していると考えています。

今期収集実績
2019年1月～11月

約 **39.6** m³



広域清掃の様子①



広域清掃の様子②



ペットボトルキャップ回収活動

マテリアルリサイクルを目的にペットボトルキャップを回収・収集し、その売価を発展途上国の子供達へのワクチン購入資金として寄付しています。平成21年より活動に取り組み始めました。当初、社内だけでの収集であった取り組みも年を重ねるごとに徐々に広がりを見せ、今では地域の方々や子供達の協力を頂いています。

普及活動

「花とレンガのエコフェスタ」では、ペットボトルキャップ持参でご来場いただいた地域の子供たちへ綿菓子などをプレゼントしています。神戸で開催される「建設ふれあいまつり」では普及活動の一環としてペットボトルキャップアートを企画、「姫路環境フェスティバル」ではブース出展にて、活動への理解を深めてもらうため、定期的に参加させていただいています。今後もこのようなイベントには積極的に参加していきたいと考えています。



協賛団体へ感謝状贈呈



環境負荷低減

新たなCO₂排出を抑制するため、回収は収集運搬の業務の合同で行い効率的な回収に努めています。

子ども学習

回収時には、小学校から高校の生徒さんに向けて環境学習を実施しており、活動の目的だけでなく、環境問題やリサイクルの重要性をご理解いただくための活動を行なっています。

協賛団体数

700 団体様以上

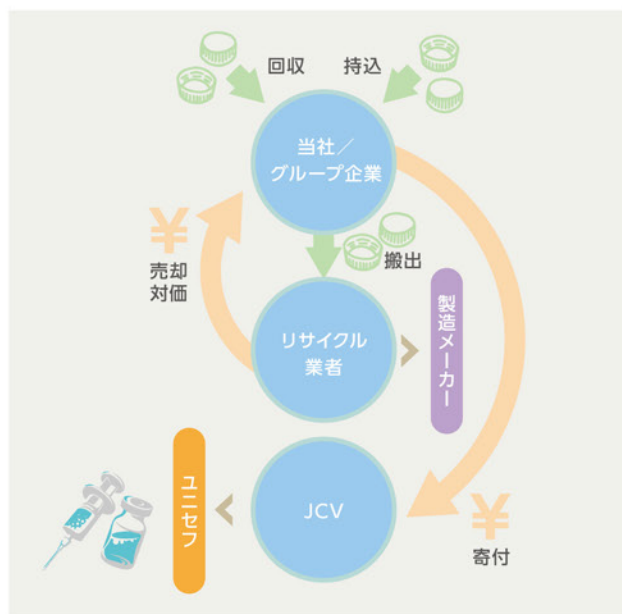
今期収集実績
2019年1月～12月

13,382,406 個

ワクチン寄付量 換算 11,152人分

2018年12月までの累計個数 76,843,034個

収集活動フロー





花とレンガのエコフェスタ

原料の80%を廃棄物・副産物で代用し、焼かずに製造しているエコレンガの普及活動、ならびに日頃からご理解とご協力頂いている地元住民の方々に感謝の意を込めて年に2回、製造工場直卸しの特売会を開催しています。

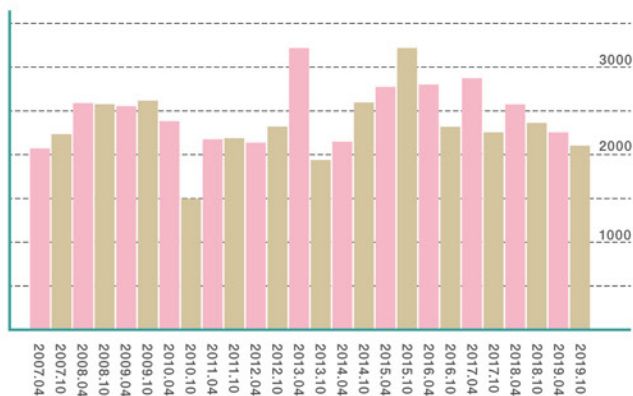
④ 地域の方々

この行事では、エコレンガだけでなく、ガーデニング関連の商品も豊富にラインナップ。周辺地域より多数の方々にご来場いただき、毎回盛り上がりを見せています。2019年は4月と10月で合わせて約4400人以上の方々にご来場いただきました。

2007年の第1回から通算26回目を数え、今では地域の方々にも馴染んできていますと実感しています。年2回の開催を待ち望んでいたという声も多数いただいています。エコレンガは、エコロジー製品の観点だけでなく、独特な風合いによって、親しまれています。

また、地域還元だけでなく、売上の3%をペットボトルキャップ活動で得た寄付金と合わせてJCVを通じてユニセフへ寄付、義援金として災害地域の支援に充てています。

④ 来場者推移(人)



④ イベントを通じて普及を推進

定期的に行う「花とレンガのエコフェスタ」内でペットボトル収集活動やフードバンクへの支援活動などの啓蒙活動を行っています。



エコフェスタの様子①



詰め放題



エコフェスタの様子②

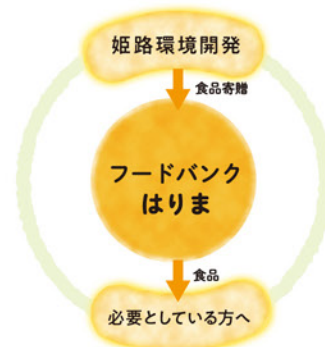


フードバンク活動への支援

現在日本において、本来食べられるにもかかわらず廃棄される「食品ロス」が問題となっています。食品ロスが大量に発生している一方で、食べる物がなく貧困生活を強いられている人々も数多く存在しています。姫路環境開発では、食品ロスを減らすとともに、食品を無駄なく消費して多くの貧困者が安心して暮らすことができる社会の実現を目指し、「フードバンクはりま」の活動に参画し、余った食品を集める活動を展開しています。

④ 地域・他企業・他団体との連携

地域・他企業・他団体と連携することで、フードバンク活動の存在や意義を広く一般に普及させることが目的です。食品を廃棄する企業側には無駄をなくしていく意識を持ってもらい、一方で潜在的にそのような支援をしたいと考えている人々が活動を行うきっかけを作ること、その両側からの支援の輪を大きく広げ、相互扶助の社会づくりに貢献することができると考えています。



食品寄贈



集まった支援食品



集まった支援食品

活動者の声

NPO法人フードバンクはりま 理事長 辻本 美波氏

世の中には皆さんの想像以上に貧困家庭が多く、満足に食事をできていない方がいます。私たちの活動を通して現状を知っていただき、支援の輪を広げていきたいと考えております。その点、姫路環境開発さんは会社内で社会貢献の意識が根付い

ておられ、私たちの活動にも理解を示しご協力いただいています。私たちがこの活動を続けていくことで皆さん意識され、一家庭のロスが減っていきます。ごみの量が減り環境にも良く、国民全員がその意識を持つということにつなげていけば良いと思います。





環境学習

産業廃棄物を取り扱う企業として環境問題は切っても切り離せない重要な事項であり、環境問題に対しどのように向き合っていくかが課題となっています。そこで姫路環境開発では次代を作る、未来を担う子どもたちに少しでも環境問題を知ってほしい、興味を持ってほしいという思いから地元の小学生の方々に環境学習を行いました。総合的な学習の時間に環境問題、特にゴミについて学習されている小学4年生を対象に実施しました。

④ スライドを用いた講義（ゴミのゆくえ、海洋プラスチックゴミ等）

子どもたちに身近に感じてもらえるように生活の中で発生する食品ロスについて、また近年問題視されている海洋プラスチック問題についてお話ししました。クイズを出したり質問を投げかけ

ることで子どもたち自身で考えてもらえるよう、参加型の講義を行いました。

④ ダンボールの積込体験

廃棄物がどのように回収されているのか、実際に体験してもらうべくパッカー車にダンボールを投げ入れる積込体験を実施しました。

④ ペットボトルキャップアート

ペットボトルのキャップを専用のパネルにはめていき、キャラクターを完成させます。捨ててしまいがちなものでも工夫次第で遊び道具にもなる、様々な使い道があると感じさせることを目的に実施しました。



クイズの様子



スライドを用いた講義



積込体験



自助自立への取り組み

環境問題に対して、様々な角度からの取り組みを行う一環で自助自立をテーマに農業や漁業にも携わっています。日本の食料自給率は40%まで低下し、主要先進国の中で最低の水準となっています。食料需給がひっ迫する可能性が見込まれる中で、自然環境や、限りある資源などの理解や関心を深め、自らの食生活を見つめ直し、身近な食べものを大切にしていこうと考え方が必要だと考えています。

④ ひめかんファーム

自然の中に身を置き、動植物と触れ合ったり、自然の恵みを五感で味わったりする体験は、子ども達の知識や関心として残り、将来、自然を大切にしようとする思いにつながると信じています。地元の土地でできる収穫体験は、感動を与え、ものづくりの良さに気づき、自然に親しみや愛着を感じさせるものであります。私達はそういう思いのもと、ひめかんファームを継続して行っています。

サツマイモ収穫体験

2019年度(2回実施*)

計 **190** 名参加

※保育園・幼稚園とその保護者対象で実施

④ 水産事業

2隻の漁船を保有。定期的に海へ出て漁を行っています。水揚げされた前どれの新鮮な魚介類は社員へ安価に提供しています。魚種も多様で社員の間でも評判が良く、福利厚生の一環となっています。また、漁の過程で回収する様々なゴミは持ち帰り、適正処理を行っています。海の清掃活動としても有意義なものであるため、今後も継続していきます。



明理番号



回収した海のゴミ



サツマイモ収穫体験



サツマイモ収穫体験



漁で獲れた海産物

環境負荷低減に関する取り組み

姫路環境開発はその業態の属性柄、全社員にわたり環境負荷低減への意識が根付いています。リサイクル事業をさらに強化していくとともに、一人ひとりが取り組みに対し理解を深め、実行に移していきます。

☀ 太陽光発電

工場の屋上に太陽光パネルを設置し、再生可能エネルギーの創出に寄与しています。温室効果ガスを排出しない国内生産のエネルギーは、エネルギー自給率の改善にも寄与できると考えています。

再生可能エネルギー創出累計
2014年2月～2019年12月

246,112 kWh

平均的1世帯※ 換算 60年分相当

※平均11.2kWh/日(環境省 電力消費量実測調査報告書より)

🌱 エコレンガ普及活動

姫路環境開発の事業の1つとしてエコレンガ製造・販売があります。エコレンガは、砕石廃土・溶融スラグ・グラスウール・瓦くずや、多種類の未利用資源を利用して製造しています。中でも『アーザンブリックス』は、無焼成固化技術(特許製法)により、焼かず

に生成する画期的なレンガ風ブロックで、再生原料比率74%以上。さらに、無排水・無廃棄生産を実現します。エコな製造方法によりCO₂削減に寄与し、地球温暖化防止に努めています。

🚚 収集運搬業務における排出ガス抑制の取り組み

環境負荷低減のため、収集運搬車両の燃費基準適合車両への移行を推進しています。

令和2年3月時点で平成27年燃費基準達成車を60台中52台保有し、日々の収集運搬業務における化石燃料の使用の削減、排

出ガスによる環境汚染の抑制などの環境負荷の低減を行っています。

🍴 My箸活動

森林伐採に対する環境保護の意識を持つため、全社員が「My箸」を携帯し、社内での食事はもちろん、外食の際も割り箸を使わない活動をしています。



My箸と箸袋



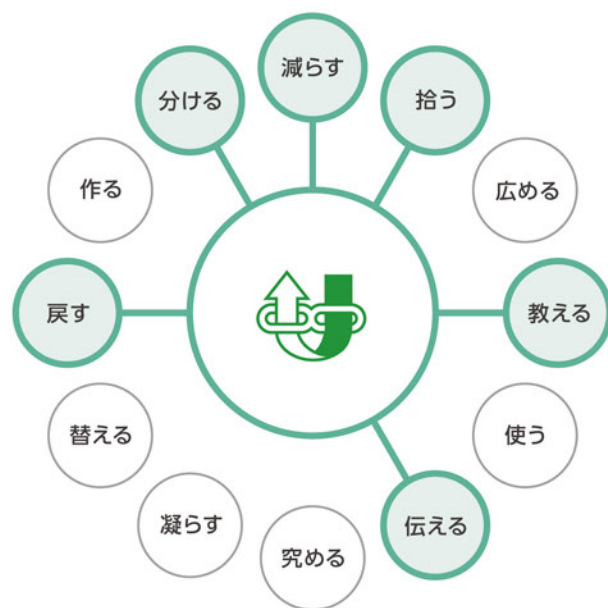
Plastics Smart



➡ プラスチックスマートに寄与

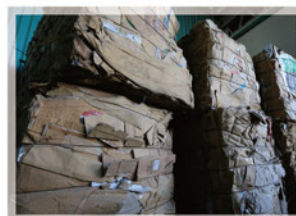
姫路環境開発が扱うリサイクル資源の中には、当然プラスチック材があります。収集した物を圧縮・再資源化し出荷しており、これらのリサイクルフローは、環境省が推進する「プラスチックスマート」につながります。ポイ捨てなど、回収されずに溜まったゴミが河川などを通じて海に流れ込むことを防ぎ、「海洋プラスチックごみ」の流出量を削減。海の豊かさの保全と次世代へと継承していくための活動に寄与しています。

減らす	使い捨てプラ製品の置き換え（紙製へ）
拾う	広域清掃活動
教える	子どもたちへの環境学習
伝える	クリーンアップ作戦への参加
戻す	ペットボトルキャップ収集活動
分ける	プラスチックリサイクルの推進



➡ リサイクルを通して循環型社会

姫路環境開発主幹事業であるリサイクル業務は、資源循環社会の形成において非常に重要な役割を占めます。「生産、消費、生産…」という経済のサイクルを再利用でつなぐことによって、エネルギーの無駄遣いを防ぎます。当社から出荷されるリサイクル資源は、工業製品の原材料としての再利用だけでなく、燃料としても再利用されています。



ダンボールの圧縮梱包



プラスチックのペール品



社員教育

姫路環境開発において、人材育成の強化は、当社が目指すビジョン・ミッションを実現させていくうえで、重要なテーマであると考えています。激しい外部環境の変化の中で、当社が新たなステージへ向かうべく、活躍できる「あるべき人材」を計画的に創出するための人材育成の仕組みの構築に取り組んでいます。

⊕ ESJ優良セールス検定

法改正の頻度が多い産業廃棄物処理業界において、法令順守は必要不可欠であり、お客様からも最も求められる重要項目の一つです。社内では新人教育、各部ミーティング時の定期教育、実践を通してOJT教育などを行い、社外では産業資源循環協会や地方自治体が開催する講習会へ参加。また、専門家の解釈などを社

内に持ち帰り水平展開を行っています。

社内・社外教育を客観的に確認するため、(株)エコスタッフ・ジャパンが運営する優良セールス検定（産廃知識・ビジネススキル・接遇等）を受け、現在は28名が合格し認定を受けています。全社員が認定を受けられるよう今後も教育を進めていきます。

⊕ D.M.P訓練制度

経営者・幹部役員から新入社員まで外部に委託して研修を行っています。新入社員研修では社会人になるための心構えや思考力はもちろん、経営理念の共通理解、行動習慣の体得など基礎となる部分を教えていただきます。経営者研修では経営者としてどうあるべきかの意識革新・行動革新を目的に、社会の変化にいち早く対応できる企業づくりを目指しています。



研修の様子(社内)



研修の様子(園教寺)

活動者の声

株式会社ディー・エム・ピー 代表取締役 日高 安則氏

(株)姫路環境開発様は掲げられている経営理念を実現するために、人材育成を計画的・継続的に実施されています。特に、弊社独自のD.M.P. 訓練を理念実現の基礎づくりに上手に活用し、その結果、「将来を見据えた後継者や幹部づくり」・

「自ら考え、主体的に仕事をする社員づくり」、そしてその基本となる、人間として人の役に立つために、「安全・正直・誠実・謙虚が実践できるように『社長以下全社員が徹底する』」という状態を弊社と共に創っています。





会社案内 Corporate Profile ▶▶▶

会社概要

Company Profile



〔経営理念〕

安心・安全・適正な総合リサイクルセンターを目指し、社員全員が参加し、自らが学習し、価値観の共有化ができる組織。

限りない資源を生み出す企業として、時代に合った顧客のニーズに対応するためのシステム。

人材育成が企業を育て、社員が満足して仕事のできるシステム。

廃棄物を通じて、社会に必要とされる企業を作る。



〔社訓〕



地球環境へ限りない挑戦！

〔環境方針〕

理 念

株式会社 姫路環境開発は、環境保全を経営の最重要課題の一つとして、経営トップを筆頭に全従業員一丸となって地球環境を守る活動を展開していきます。

方 針

株式会社姫路環境開発は、「地球環境へ限りない挑戦！」をスローガンに、産業廃棄物処理業務を通し環境負荷を低減し、美しい地球を次の世代に引き継ぎます。又、瀬戸内の地にふさわしく環境に優しい企業を目指していきます。



〔業務内容〕

4つの主力事業で、 美しい町と環境を守り 循環型社会の実現を目指す

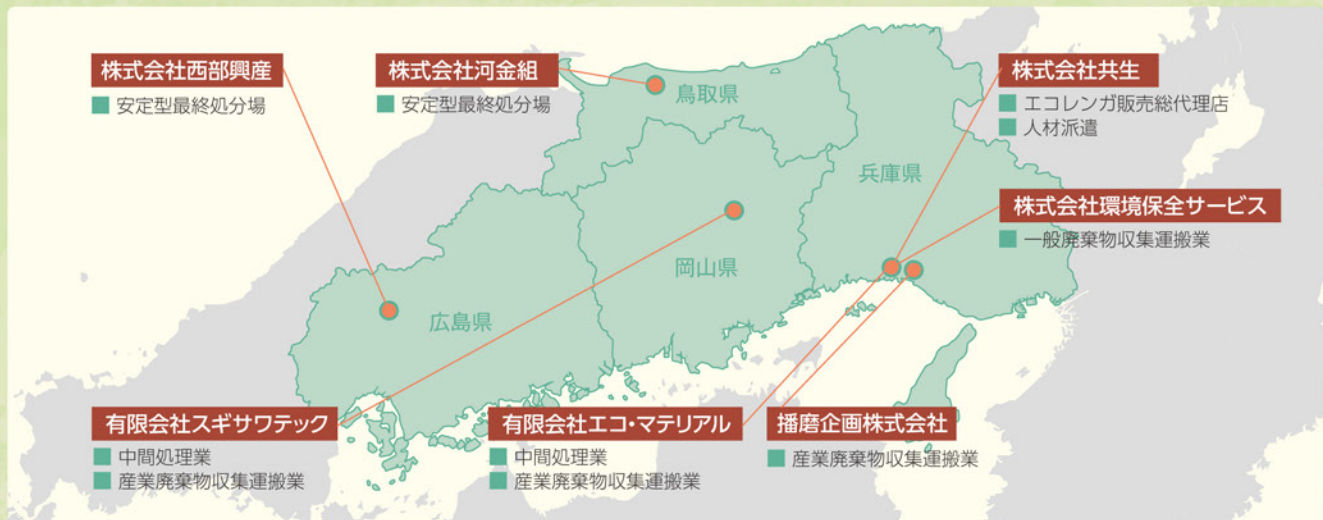
徹底した廃棄物の選別、資源回収を行っております。
廃棄物の適正処理を行い、高い資源回収率を実現。
現在、31の許可で**優良認定**を取得！
豊富な車両及び処理施設を有し、多様な状況に対し、
安全、かつ迅速にお応えします。



〔多分野への対応を可能とするネットワーク〕

関連企業

グループ各社と連携することにより資源回収率をより高め、また環境にやさしい製品づくりを行っております。



[中間処理]

お客様の業種や
さまざまな状況に合わせ、
最適なお提案を致します。

姫路環境開発は、その事業の社会的責任・重要性を認識し、廃棄物を再資源化するべく、徹底した選別を行っています。

有価物以外は減容化し、効率的な中間処理を行うことで、地球環境にやさしい処分を実施。

地球環境における取り組みでは国際的な動向にも注力してまいります。

社会・産業

持続可能な循環型社会へ

大切な資源は、再び社会へと循環します。

リサイクル率

74.4%

※2019年2月末現在



循環型社会実現
真の一貫性を目

生産・製造業者へ

廃棄物を有価物へと転化させ、新たな製品へと生まれ変わります。

マテリアルリサイクル

サーマルリサイクル

エコレンガ製造

原料の74%以上が廃棄物や副産物を利用して無焼成にて製造しています。

最終処分場

適正処理

リサイクルに向かない廃棄物は廃棄物処理法を遵守し適正に処理。

中島工場

■ エコレンガ製造
■ 積替保管センター

収集運搬 解体工事

生産工場や建築現場、
解体工事により出た廃棄物を
収集運搬。または、
直接搬入が可能。



豊富な車両を有し、排出
される廃棄物の多様な状況に
対し、柔軟に
対応致します。

保有車両は
P21へ



当社に搬入される廃棄物は、紙くず・木くず・廃プラスチック類と
さまざまですが、多くはそれらの混合された状態として搬入さ
れます。混合廃棄
物は、前選別によ
って有価物等を取
り除き、破碎処理
をした後に品目別
に選別されます。



選別ラインシステム 破碎機TM-5000

処理能力
720.8t/日

本社・本社工場

- 混合廃棄物リサイクル
- がれき類リサイクル
- 汚泥リサイクル



木くず リサイクルセンター



破碎機 HMP-1400

処理能力
160t/日

再資源化へ

数々のリサイクルラインを導入。

1日あたり、「木くず」160t/日、「紙くず」108.0t/日、「繊維くず」77.0t/日の処理能力を有しております。

廃プラ・紙くず
繊維くず混合



RPF

硬質プラスチック



ペレット

コンクリートくず



路盤材

木くず



木材チップ

その他、紙くず、金属くず、ガラスくず、塩ビ管等多様に再資源化しております。

従業員数
資本金
工場



Map showing the location of the Midoh Island Plant (中島工場) and surrounding facilities. Key locations include:

- 中地I.C. (Nakachi I.C.)
- 姫路南I.C. (Himeji South I.C.)
- 市川I.C. (Ichikawa I.C.)
- 姫路ハイパス (Himeji Highway)
- 西飾磨駅 (Sei-Saijima Station)
- 山陽電鉄 (San'yō Electric Railway)
- エディオン (Edion)
- 新日鐵 広畑製鉄所 (Nippon Steel Hirohata Steel Works)
- リバーシティ (River City)
- 中島 (Nakajima)
- 山陽特殊製鋼 (San'yō Special Steel)
- 合同製鉄 (Godo Seisaku)
- 山陽特殊製鋼 (San'yō Special Steel)
- あかねの湯 (Akane no Yu)
- 妻鹿駅 (Sakura Station)
- 大橋西 (Ohashi West)
- 市川浜手 (Ichikawa Hamate)
- 高浜小学校 (Takabashi Elementary School)
- 姫路市役所 (Himeji City Office)
- 恵美酒郵便局 (Ebisu Yubinjo)
- 木くす リサイクルセンター (Kikusuri Recycling Center)
- エコレンガ工場 (Eco Bricks Factory)
- 姫路第一発電所 (Himeji No. 1 Power Station)
- 本社工場 (Main Plant)
- 中島工場 (Nakajima Plant)
- 〈拡大図〉 (Enlarged Map)

企画・編集

株式会社姫路環境開発
事業本部 総務課 広報委員会

発行年月

2020年3月

お問い合わせ先

株式会社姫路環境開発
事業本部 総務課 広報委員会
〒672-8035

兵庫県姫路市飾磨区中島字宝来3067-17

Tel:079-233-3353

Fax:079-233-6262

<https://www.himejikankyo.co.jp/>

Earth is us.



株式会社 姫路環境開発
HIMEKAN GROUP



適用範囲：本社・本社工場／中島工場／木くずリサイクルセンター

2020年3月発行